

# 水環境館いきものトピック Vol.1

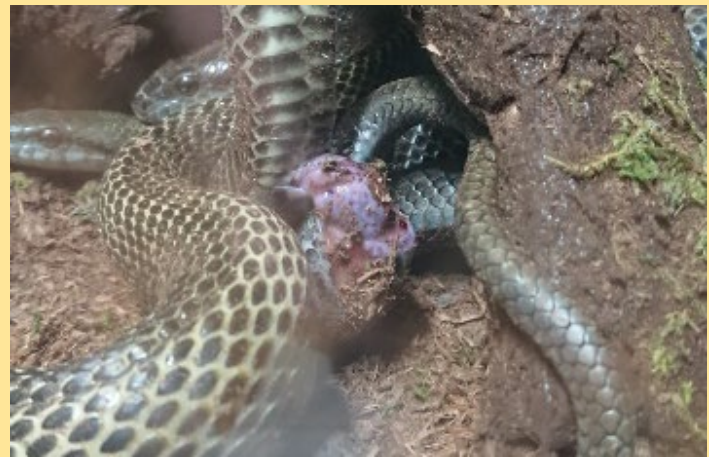
## アオダイショウの交尾

令和3年1月6日(木)14:00頃、まなびエリアで展示しているアオダイショウのペアが交尾している様子を見ることができました。当館のアオダイショウはここ数年、毎年初夏の頃に産卵をしていますが、交尾のシーンに出くわしたのは飼育員も初めてのことであったので、その経過を一部観察することとしました。



当館で展示しているアオダイショウ(メス)

アオダイショウは日本全国に分布する大型のヘビです。4月中旬ごろから陽のあたる場所で日光浴をしている姿を見かけることもありますが、樹上を好むヘビであり、野外では主に木の枝に絡みついている姿が見られます。



交尾の様子(写真中央の赤い部分がヘミペニス)

ヘビをはじめ爬虫類の仲間は「総排泄腔」という穴があり、排尿や排便(おしっこやうんち)、メスの場合は卵もここから出てきます。また、オスには「ヘミペニス(半陰茎)」とよばれる交接器(おちんちん)が収納されており、交尾の際はこのヘミペニスを使います。ヘミペニスは左右で2つありますが、使われるのはどちらか片方だけです。また、ヘミペニスの形状は種類によって形が異なるため、見分けが難しい種の判別にも使われることがあります。

今回の交尾は30分ほどで終わりましたが(途中から気づいたのでもっと長かったかも?)、自然界では数時間に及びこともあるそうです。また、野生下の場合、交尾は通常冬眠明けの春終わりごろに行われますが、今年は換気を頻繁に行い、館内の気温が低くなりがちだったこと、その後、当館が取り組んでいる淡水魚類の繁殖のため、夜間も常時暖房をつけたことなどで、気温の変動が冬から春の変化と似た状態になったことが、この時期の交尾につながったのではないかと考えています。当館で昨年(5匹)、一昨年(3匹)と繁殖したデータでは、6月に産卵を確認し、約2か月後の8月中旬に孵化しています。野生下でも5~6月頃に交尾を行い、夏から秋にかけて卵が孵化するとされていますので、このままだと今年は夏前ごろに産卵・孵化するかもしれません。赤ちゃんアオダイショウが生まれたら、皆様もぜひ会いにお越しください。

